

# 宇宿小学校 NIE 部会 平成 28 年度の取組について

## I 各学年の NIE の目標

低学年（1・2年）	→ 新聞の写真に興味を持ち、親子で新聞に親しむことができる。
中学年（3・4年）	→ 新聞の記事を読み、自分の考えを持ち、表現することができる。
高学年（5・6年）	→ 新聞記事と自分の考えを比べたり、くわしく調べたりして、具体例や根拠を示しながら意見文を書くことができる。

### 【今年度の重点課題】

**一人一人の読む力や表現する力を高めるための、新聞を活用した授業形態の確立**

## II 具体的取組

### 1 全学年共通の取組

#### (1) 校内 NIE コンクール

夏休みに実施。興味を持った記事を選び、自分の考えを添えて文章を書く。学年ごとに特選・入選・佳作を選ぶ。全校朝会での表彰と作品発表。特選作品は新聞感想文コンクールへ出展。

#### (2) NIE コーナーの設置

各学年→水道前の壁を活用。「オセモコ」「紹介記事」「児童の新聞感想文」等の掲示。校長室前・各教室内にも設置する。

#### (3) 委員会活動での取組

委員会の実態に合わせて取り組む。興味を持った記事の紹介。新聞感想文の掲示など。

#### (4) 子どもの作品投稿

南日本新聞「ひろば」「子どものうた」等

#### (5) 家庭での取組

- ・親子で新聞に親しむ活動（ファミリーフォーカス）
- ・テーマ（自然・スポーツ・社会問題等）を決めてスクラップ作り
- ・よむのびコンクールへの参加（4年以上）



校内 NIE コンクール 特選作品

### 2 各学年の取組 ※ 週1回～月1回程度を目安に継続的に取り組む活動

1年	担任が新聞記事を紹介し、感想を発表し合う。 (活動例) 子ども新聞、写真をもとにしたファミリーフォーカス
2年	写真を中心に新聞記事を紹介し、感想を書く。 (活動例) 好きな写真を切り抜き、カレンダーを作る。 将来の夢に関係する写真を切り抜き、友達に自分の夢を紹介する。
3年	写真や本文を見て新聞記事を紹介し、感想を書く。 (活動例) 帰りの会等での1分間スピーチ。NIE コーナーに掲示。
4年	作文ノートに新聞記事を貼り、その記事に対しての意見文を書く。 (活動例) NIE コーナーに掲示。国語科の授業での取組（新聞を作ろう、漢字の広場）
5年	規定用紙に新聞記事を貼り、その記事に対しての意見文を書く。 (活動例) 南風録スクラップ帳の取組（週一回家庭学習）帰りの会等での1分間スピーチ
6年	気になった記事、記事の内容、自分の考えを400字程度にまとめて発表する。 (活動例) 南風録スクラップ帳の取組（週一回家庭学習）帰りの会等での1分間スピーチ

### 3 授業実践（研究授業）を通じた校内研修の充実

#### (1) 本校校内研修「国語科（読むこと）」に関連する新聞活用の研究授業

1学期（6月）…5年生

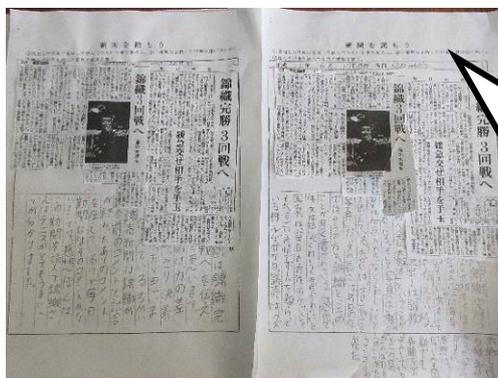
2学期（9月）…3年生

授業実践 5年 国語科

- 単元 新聞を読もう
- 目標 複数の新聞記事を読み比べることの意味や効果を知り、見出しやリード文から要旨を捉えることができる。
- 事前 新聞の作り方や工夫に興味を持ち、編集の仕方や記事の書き方に目を向けて新聞を読むことができるように新聞の作り方の工夫・記事の書かれ方を確認していく。また、新聞記事に載っている金環日食の仕組みについて説明し、記事に載っている分からない語句は、国語辞典で意味を調べておき、新聞の内容を理解させておく。
- 本時の流れ（2／3時間目）
  - (1) 第1時に習った新聞用語について確認する。
  - (2) 2つの新聞記事を見て、見出しと写真の違いを考える。
  - (3) 2つの記事を比べて何を伝えたいのか、2つの記事の違いは何かを個人で考えた後グループと全体で考える。
  - (4) 2つの新聞記事について気付いたことをまとめる。
  - (5) 鹿児島県で配布されている新聞記事と全国記事の違いを確認する。
- 事後 同じ内容が書かれている2つ記事を読み、意見や感想を書いたり交流したりする。
- 成果と課題
  - 「リード文」「見出し」などの用語を知ることによって、新聞に対する興味が深まり新聞の読み方が分かる子どもが多くなった。
  - 地方の新聞と全国の新聞によって書き方や伝え方に違いがあり、いろんな新聞を比べて読もうとする子どもが増えた。(1階のNIEコーナーで読む子どもがいた。)
  - 友だちと交流することで、友だちの意見を聞いて考えを深め、友だちに意見を聞いて賛同をもらうことで学習への自信につながっていた。
  - ▲ 語彙力が少なく、新聞の内容を理解するのに時間がかかる記事もあった。国語辞典の活用など、語彙力を高めたり、日常的にニュースに目を向けさせたりする必要がある。



教科書を拡大したものを授業で使用



事後で、地方紙と全国紙との違いを書き、感想を交流後、掲示板に掲示した。



一つの記事で全国紙と地方紙との伝え方の違いを確認



違いについて書きやすいようにワークシートを使用

授業実践 3年 国語科 (指導・助言 鹿児島大学教育学部 上谷 順三郎教授)

- 単元 場面の移り変わりを読んで新聞を作り、感想を伝えよう「ちいちゃんのかげおくり」
- 目標 二つのかげおくりの共通点・相違点と場面の移り変わりを捉えて、叙述をもとにちいちゃんに対する自分の考えを表現することができる。
- 事前 ①実態把握のために、「若い目」掲載の3年生の作文を読ませて、見つけた5W1Hをワークシートに書かせる。  
②戦争・平和について内容を理解させるために、関連する記事を紹介して、教室に掲示する。  
③児童とともに、5W1Hのキャラクターカードを作成し、5W1Hに着目しながら全文を読ませる。  
④初めのかげおくりについての新聞を作る。(場面の様子・ちいちゃんの気持ちを書く)  
⑤最後のかげおくりについて、場面の様子までの新聞を作る。
- 本時の流れ (5 / 10 時間目)
  - (1) 二つのかげおくりの場面を読んで、同じところと違うところを話し合う。
  - (2) 最後のかげおくりの場面を読んだ感想を、友だちと交流する。
    - ・ 自分の感想をワークシートに書く。
    - ・ グループで感想を交流する。
  - (3) 全体で感想を交流し、それぞれどの文を読んで感想を持ったのかを話し合う。
- 事後 戦争・平和に関する他の物語文を読み、場面の移り変わりや登場人物の気持ちを書く。国語の他単元や社会科(昔の暮らし)などで、5W1Hカードを活用し、文章の内容や人々の生活の様子などについて理解させる。
- 成果と課題
  - 5W1Hに着目させることにより、場面の移り変わりを捉えることができ、登場人物の気持ちを考える学習へスムーズに移行できた。
  - モデル文や語彙表を活用し、一人一人が個人の力で新聞を完成できた。
  - グループでの話し合い活動の流れが定着し、教科書の叙述をもとに自分の感想を伝えることができた。
  - ▲ 個人の実態に合わせた「文章を書くこと」への指導のあり方。
  - ▲ グループ学習の時に、一人一人が感想を伝えて終わるのではなく、友達の発表を聞いてお互いの考えを交流するためには、どんな手立てが必要か。



5W1Hキャラクターカード

児童作成「ちいちゃんのかげおくり新聞」

グループでの交流。ちいちゃんに対する自分の感想を発表する。

## (2) 研究授業以外の実践

### 授業実践 1年 国語科

- 単元 親子で新聞記事を読もう（ファミリーフォーカス）
- 目標 親子で関心のある記事を選び、思ったことを書くことができる。
- 事前 ①人数分の新聞と、記録用紙を準備する。  
②興味を持った記事にマーカーを付けておく。

### 本時の流れ（授業参観）

- (1) 興味を持った新聞記事を探して、記事や写真を切り抜く。
- (2) 切り抜いた記事や写真について親子で話し合い、感想を書く。
- (3) 友達と作品を紹介しあう。



### 事後 家庭学習でのファミリーフォーカスの実施

### 成果と課題

- 新聞販売所の協力により、全員が新聞を手にとって充実した活動ができた。
- 親子で新聞記事にふれ、児童が世の中の出来事について知ることができた。
- ▲ 一年生という実態に合わせた記事内容の紹介。

### 授業実践 6年 国語科

- 単元 この絵、私はこう見る
- 目標 絵を解説した文章を読み、自分のものの見方を広げる。
- 事前 ①絵を見て、読み取ったことや感じたことを書き出す。  
②何をどの順序で書くか決める。  
③表現を工夫して、文章に表す。  
④書いた文章を読み合う。

### 本時の流れ（6/6時間目）

- (1) 新聞記事の写真を見て、読み取ったことや感じたことを書き出す。
- (2) 事前に学習したことを生かして、表現を工夫して文章に表す。
- (3) 新聞記事の文章を読んで、自分が書いた文章と比べる。

### 事後 興味がある記事についての感想を書く。南風録を視写する。

### 成果と課題

- 自力で自分の考えをまとめることができた。
- 長い文章を書くときの抵抗感や苦手意識が少なくなった。
- ▲ 自分の思いを適切に表現するための語彙力の向上に、個人差が見られる。

## Ⅲ 成果と課題

### 1 成果

- 普段からファミリーフォーカスを家庭学習で取り組み、「スクラップ甲子園」「校内N I Eコンクール」「新聞感想文コンクール」（夏季休業）「よむのびコンクール」（冬季休業）と、年間を通して、児童が新聞記事を読み自分の感想をまとめる学習ができた。
- 授業参観でファミリーフォーカスや「よむのび教室」を実施し、親子で新聞にふれる機会を作り、新聞への関心を高めることができた。
- 長文を読み取る際、長文の主述や要旨をとらえて読む力が向上し、「書くこと」の学習に生かされている。
- 夏季休業中に外部講師を招き、学習における新聞作成、教材としての視点での新聞活用、学力との相関などについて職員研修を行い、2学期以降のN I Eの活動へつなげることができた。

### 2 課題

- ▲ 国語科・社会科以外の教科での新聞活用を研修・実践し、指導計画に位置づける等、次年度以降へ引き継いでいく必要がある。
- ▲ 全国学力学習状況調査等の結果から日常生活で新聞にふれる機会が減少していることから、担任が与えるのではなく、児童自ら進んで新聞を読み実生活に役立てるような新聞活用方法の研究が必要である。